

平成27年産(26年播種) 麦類生育概況

長野県農業試験場 作物部

調査月日	項目	大麦:ファイバースノウ			小麦:シラネコムギ		
		平年	平成26(播) ~27年(産)	平年比	平年	平成26(播) ~27年(産)	平年比
出芽期 (12月1日)	出芽数 本/m ²	159	185	116	153	166	108
越冬前 (12月15日)	草丈 cm	10.3	積雪のため 調査できず		14.5	積雪のため 調査できず	
	茎数 本/m ²	411		464			
	葉数	3.9		4.0			
越冬後 (3月2日)	草丈 cm	10.5	10.6	101	14.5	13.4	92
	茎数 本/m ²	785	613	78	976	743	76
	葉数	5.8	5.5	-0.3	6.3	5.8	-0.7
(3月16日)	草丈 cm	12.7	12.6	99	16.0	15.0	94
	茎数 本/m ²	1046	975	93	1236	1107	90
	葉数	7.4	5.8	-1.6	7.4	6.5	-0.9
幼穂形成期		3月4日	3月18日	+14	3月20日	3月18日	-2
茎立期		3月23日	3月26日	+3	4月1日	3月26日	-5
出穂期		5月5日	5月1日	-4	5月11日	5月6日	-5
成熟期		6月11日	6月3日	-8	6月24日	6月15日	-11
成熟期	稈長 cm	96	83	86	88	80	91
	穂長 cm	5.0	5.2	104	8.3	8.8	106
	穂数 本/m ²	483	343	71	568	386	68
収量	子実重 kg/a	72.3	63.3	88	70.7	58.8	83
	容積重 g/l	721	701	97	812	787	97
	千粒重 g	39.0	41.0	105	40.6	44.1	109

※平年値は過去7年間に於ける最大値と最小値を除いた5カ年の平均値

<耕種概要>

栽培様式: 30cm条間ドリル播

播種期: 大麦 平成26年10月27日、小麦10月28日 播種量: 7kg/10a

施肥量(N): 基肥 6kg/10a、茎立期追肥3kg/10a、3月16日 止業展開期追肥2kg/10a、大麦4月22日、小麦5月1日

<生育概況>

越冬前

播種期から11月は比較的温暖であったが、12月は低温傾向で積雪も多かった。12月1日調査では、順調な生育であったが、12月15日調査は積雪により調査ができなかった。

越冬後

(3月2日現在) 1月から2月はほぼ平年並の気温、積雪であったが、12月の低温積雪による影響により、茎数が平年より少ない。

(3月16日現在)

3月上~中旬は平年並から高い気温で推移し、生育はかなり回復傾向にある。

幼穂形成

~茎立期

3月下旬は寒暖の差が大きかったが、平均気温は高めとなった。大麦の幼穂形成期は14日程度遅れたが、茎立期はほぼ平年並となった。小麦は幼穂形成期はほぼ平年並、茎立期は平年よりやや早くなった。

出穂期

4月上旬以降気温が高めに推移し、大麦、小麦とも出穂期は4~5日早くなった。

麦類の登熟期間は、全般を通じて高温傾向に推移したため成熟期が早まった。

大麦は、登熟後期(糊熟~成熟期)の気温が平年並みかやや低めで経過したため、成熟期の早まりは4日程度であった。

成熟期

小麦は、登熟中期のみ低温傾向であったが、後半も高温に経過したたことや中期に無降雨が続き、後期にまとまった雨がかったことなど圃場乾湿の差が大きかったことから根や植物体の老化が進んだことも加わり、成熟期は平年より11日早まった。麦類の登熟適温は最高25℃程度までとされるが、本年はこれを大幅に超える日が多かった。

収量

穂数が少なく、成熟期が大幅に早まったことなどから、収量は大麦で平年の88%、小麦で平年の83%にとどまった。容積重も粒の充実不足から平年より20~25g程度軽くなった。穂数が少なくなった影響で粒は大きくなり、千粒重は平年より3~3.5g程度重くなった。